

幼児用問題行動対応ノート
COMPASNOTE-infant

問題行動の分析・対応

@個別の指導計画関連項目

1. 問題行動の分析： 問題行動の特定化、 先行条件の分析、 子どもの特性の分析、 今までの対応とその有効性、 問題行動の機能分析		
対 応	ノ ー ト	備 考
<p>問題だと思われる行動を一つあげてください</p> <p>* 乱暴などの問題行動はこのまま継続</p> <p>* 「ひとりで できない」など、ほかの園児に比べて遅れていることが疑われる場合や、獲得していない行動の場合は「遅れへの対応」を参照してください</p> <p>その問題行動は、どんなときによく起こりますか（活動、場所、相手、きっかけ、状況など）</p> <p>子どもの特性に当てはまることはありますか 1) 知的な遅れ、発達の遅れ 2) 生活の乱れ等養育上の問題 3) ADHD 4) 広汎性発達障害</p>	<p>問題行動を具体的に書きましょう</p> <p>活動</p> <p>・ 場所</p> <p>・ 相手</p> <p>・ きっかけその他</p> <p>子どもの特性として考えられることを具体的に書きましょう</p>	<p>2- 、 に生かす</p> <p>2- に生かす</p>

<p>いままでの対応を思い出し、その効果を振り返ってください</p> <p>1)効果が見られる 継続 2)効果がない 対応見直し</p> <p>問題行動の意味を分析しましょう</p> <p>1)本人の気持ちを直接聞く 2)機能分析 要求：何かが欲しい 逃避：ここから逃げたい 注目：注目して欲しい 不安：不安、自信がない 自己刺激：退屈</p>	<p>いままでどう対応しましたか @効果ありは</p> <p>・問題行動は良くなっていますか</p> <p>本人の気持ちは？</p> <p>・問題行動の機能は何だとおもわれますか？</p>	<p>内容を指導方法に書く</p> <p>2- に生かす</p>
--	--	----------------------------------

2 . 機能的アセスメントから指導計画の作成 :

望ましい行動と代替行動
先行条件への対応 (事前の対応) 特性への配慮
望ましい行動への対応 (分化強化)
問題行動への対応 (消去と罰)
行動記録
周囲の子どもへの対応

対 応	ノ ー ト	備 考
<p>子どもにどうなって欲しいのか、当面はどうなって欲しいのか (もしくは悪くない状態) を想定しましょう。その際、1- で聞いた本人の気持ちと機能を考慮しましょう。</p> <p>1)要求 望ましい要求の仕方を考える 2)逃避 で、我慢できる限度を考慮する 3)注目 で、できるだけ声掛けすることを考える 4)不安、自己刺激 で、一緒に遊ぶ時間をもうけることを考える</p>	<p>問題行動に変わる願う姿を書きましょう。</p> <p>・すぐにはむずかしい場合、当面どうなってほしいのか (もしくは悪くない状態) を考えましょう。</p>	<p>@実現可能短期目標へ。 むずかしい場合は長期目標へ</p> <p>@短期目標へ 2 から 4 は指導方法へ</p>

<p>問題行動を起こさない事前の対応を 幾つか考えましょう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)発達の違い へ 2)養育上の問題 の4へ 3)ADHD 集中できる工夫、事前 の約束 4)PDD 視覚的手がかり、構造化 5)先行条件の工夫：事前の個別練習、事前の約束・本人への説明 <p>さらに、1- に書いた問題が起きる 状況を改善することを考えましょう</p> <p>望ましい行動、悪くない状態への対応 を考えましょう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)ほめる、スキンシップを図る 2)一緒に遊ぶ 3)ごほうびを与える 4)トークン <p>問題行動への対応を考えましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)して欲しくない軽微な問題行動 約束を繰り返し伝える 2)許しがたい問題行動 その場から 離し、クールダウンするまで待って、事前 の約束を確認する 	<p>できそうな事前の対応を左の欄から 選択して、内容を具体的に書きましょ う。</p> <p>・活動、場の設定の工夫、問題を起こ さない働きかけ方を考えましょう。</p> <p>できたときはどのように対応します か、具体的に書きましょう。</p> <p>・悪くない状態の時はどのように対応 しますか、具体的に書きましょう。</p> <p>してほしくない行動にはどう対応し ますか。具体的に書きましょう。</p> <p>・許しがたい行動にはどう対応します か。具体的に書きましょう。</p>	<p>@指導方法へ</p> <p>@指導方法へ</p> <p>@指導方法へ</p> <p>@指導方法へ</p> <p>@指導方法へ</p> <p>@指導方法へ</p>
---	---	---

<p>子どもの行動の記録方法を考えましょう。</p> <p>まわりの子どもたちへの対応を考えましょう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)1- の相手に対する対応 2)事情を説明する 3)接し方を教える 	<p>子どもの「どの行動」を記録しますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやって記録しますか。 ・いつ評価しますか。 <p>相手に対する対応を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかの子どもへの対応を考えましょう。 	<p>@評価日へ</p>
---	---	--------------

包括的な対応

項 目	対 応	ノ ー ト
1．自己肯定感の育成	1．子どもののばしたい行動、ほめる行為を考えましょう	1)のばしたい行動を具体的に書きましょう 2)どういう行為をほめますか。具体的に書きましょう
2．支援チームの設置	2．子どもに対応する職員をきめましょう。一人ではなく複数で対応しましょう。	1)対応する職員を書きましよう 2)どんなときに話し合いますか
3．個別の指導計画の作成	3．できめた内容を書類にまとめましょう	個別の指導計画は作成しましたか
4．保護者との連携	4．保護者と連携して対応しましょう。 園できめた対応のうち家庭でも実施する対応、家庭独自で対応することをきめましょう。 1)基本的生活習慣 2)身辺自立 3)遊び 4)対応(ほめ方、しかり方)	1)園できめた対応で保護者が実施を約束した対応を書きましよう 2)基本的生活習慣など、家庭で対応を約束したことを書きましよう 3)保護者との連携で課題を書きましよう

遅れへの対応

項 目	対 応	ノ ー ト
1．発達段階から目標設定 （@長期目標へ）	1．発達検査を実施し、まだ獲得できていないが獲得できそうな内容を目標に設定しましょう。	1．「できない」と認定された内容に近い項目を探し、子どもができる内容に変えて書きましょう。
2．課題分析 （@短期目標へ）	2．目標をスモールステップに分け、できるところから始めましょう。	2．目標をスモールステップに分け（もしくは基準を下げ）、できるステップをきめて書きましょう。
3．パターンをきめて繰り返す （@指導方法へ）	3．活動の手順を一定にし、日常生活の中で繰り返し教えましょう。	3．教える課題の手順をきめ、手順といつどこで教えるのかを書きましょう。
4．即時強化 （@指導方法へ）	4．できたときは不完全であってもほめてあげましょう。	4．ほめる基準を想定したなら、その基準より低くてもほめるようにしましょう。
5．プロンプト （@指導方法へ）	5．一人でできなかつたときには、援助をしましょう。最初はたくさん援助し、できるに従い少しずつ援助を減らしましょう。	5．どのタイミングでどの程度援助するのか、どのように減らしていくのか、基準をきめましょう。
6．個別支援	6．できるだけ一対一で教える機会を設定しましょう。	6．どこで、誰が教えるのか、書きましょう。

